

普及活動情勢報告（平成27年12月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

有望な新品種はこれだ！ ～JA高知市稲作研修会～



展示ブースで意見交換をする生産者

12月4日、JA高知市稲作部の年末研修会が催され、普及所から今年度設置した実証ほの成績を報告しました。

奨励品種決定試験と食味試験で良好な成績であった品種を紹介し、その品種を会場後ろに設けたブースで展示しました。

また、特定用途米の実証結果から、有望な高アミロース米と判断した品種を、会終了後の懇親会でピラフにし試食してもらい好評を得ました。

今後はこれらの品種の栽培技術の確立を目指した実証ほを設置し、早期の普及を図っていきます。

集落で作ったソバで料理研修 ～ソバを使った6次産業化研修会～



熱心に話を聞く生産者の皆さん

高知市土佐山の久万川地区集落営農協定営農組合では、遊休農地対策としてソバ栽培に取り組んでおり、生産者から料理方法を知りたいとの要望がありました。そこで、普及所は6次産業化普及活動推進事業を活用して、12月4日に久万川公民館で、ソバ料理研修会を開催しました。講師には地域食材の活用に熱心なオーベルジュ土佐山の松本料理長を招き、ソバの栄養成分やその特徴について講義を受けました。その後、集落で取れる野菜や果物をふんだんに使える「ガレット」「ソバクレープ」、日持ちのする「ソバクッキー」などの作り方を学びました。14名の参加者からは「クレープは焼いたこと無いけどやってみると楽しい」「子供も喜ぶと思う」などの声。普及所では今後も、営農組合の活動を支援していきます。

早くもせん定の時期になりました！ ～JA高知市鏡支所果樹部会講習会～



せん定方法を見入る生産者

12月7日、JA高知市鏡支所果樹部会のカキ・ウメのせん定講習会と研修会を行いました。組合員延べ23名及び関係各機関5名が参加しました。せん定講習会では、普及所からはせん定に関する簡単な資料説明し実演しました。また、研修会では、カキ・ウメの主な病気について説明しました。JAからは薬剤と肥料の説明がされました。説明後、参加者から活発に質問が出され予定時間がオーバーしました。

今後も関係各機関と連携しながら、カキ・ウメの栽培技術の向上を目指していきます。

高評価を維持するために毎週開催 ～J A高知春野花卉部会 ユリ目慣らし会～



生産者自らがチェック中

J A高知春野花卉部会（球根部会）は、12月9日に目慣らし会を開催し、活発な意見交換をしました。春野のユリは、安定した高品質のユリ産地として市場・花屋から高い評価を受けています。継続してその品質を維持するため、毎週水曜日の目慣らし会で、生産者自らの厳しいチェックを実施しています。

今回普及所からは、切り花鮮度保持剤の処理方法による日持ち性向上の試験結果を報告しました。生産者からは、有利販売につながる有望な保持剤に、期待の声が聞かれました。普及所は今後も農家にとって有用な情報提供により、部会活動を支援していきます。

イチゴの目慣らし会を開催 ～J A高知市介良支所・五台山支所～



どんな詰め方をしたらいいかな？

今年は温暖な気象の影響で、イチゴの出荷が前進化し、早目に本格的な出荷シーズンとなりました。そこで、12月15日にJ A高知市介良支所、12月18日に五台山支所の各イチゴ部会が目慣らし会を開催し、21名の生産者が参加しました。

今年作から出荷パックの規格が変更になり、イチゴの詰め方について、多くの意見交換がありました。普及所からは今年の異常気象をふまえ、厳寒期の熟期を遅れさせない栽培管理等について説明しました。

普及所は、今後も安定生産を目指して、現地指導等を行っていきます。

天敵を使いこなそう！～ピーマンの現地圃場で確認～



「天敵は定着しちゃうかねえ？」

12月18日に、J A高知市長浜支所ピーマン部が現地検討会を行いました。

参加者のほ場4カ所を巡回して生育状況を確認し、課題と今後の管理について話し合いました。普及所からは、ほ場ごとに天敵の追加放飼や薬剤散布の必要性について助言指導しました。生産者からは、アザミウマ・アブラムシの発生状況と天敵の定着状況について質問がありました。

普及所では、今後もJAと協力して天敵を利用した省力的な栽培を普及していきます。